

## スマホとマンガと読書の関係

「読書の秋」「スポーツの秋」です。まだまだ日中は暑い日もありますが、朝晩は過ごしやすい季節となりました。また、「秋の夜なが」ともいいます。この時期、本に親しむいい時期ではないかと思えます。読書は「心の栄養補給」「豊かな学びのもと」とも言います。子どもたちによい読書の習慣をつけられるといいと思えます。ただ、今はスマホやマンガに時間を取られて、読書に十分時間が割かれているとは言えない現状があるかと思えます。そこで、今回は「スマホとマンガと読書の関係」と題して、岩立 京子 先生から学び、子ども達によい読書の習慣ができるといいと願っています。

「スマホばかりやっていないで、その時間、読書したらいいのに」と思う親は少なくありません。いくつかの研究では、スマホを長時間使用する子どもほど読書量が少なく、学力が低いという結果が示されています。そういった研究結果を知ると、親としては何とかしたいと焦ってしまうかもしれません。

### 現代に、子どもが読書を楽しむ難しさ

現代において子どもは、幼い頃から、多くのキッズアプリが入ったタブレットやスマホを与えられ、使用するようになります。小学校高学年にもなると、およそ7割が自分のスマホを持ち、SNSやネット動画、ゲームに熱中しているといえます。これは、PCの普及やICT（情報通信技術）の発展に伴う必然かもしれませんが、その分、じっくりと本に向き合い、読む機会が少なくなっているのではないのでしょうか。

友達と遊ぶ時も、お互いに顔を見ることなく、会話もせずに、個別にスマホでゲームをしていることも少なくありません。友達との直接的な関わりが減る一方で、SNSなどでは、常に友達とやり取りをしないと落ち着かない子どもも多くいるようです。

### スマホ使用の問題はどこにあるのか

今は、プロのゲーマーやゲーム・クリエイターなどの職業もあるし、動画を自ら作るプログラミングに興味をもつ子どももいます。スマホで絵やマンガ付きのライトノベル（娯楽小説）を楽しむこともできるので、PCやスマホを使用すること自体は悪いとは言えないし、むしろ、現代では必要かもしれません。

しかし、問題は、使用そのものではなく、そこに幼い頃から依存してしまい、抜け出せなくなり、ほかのことに支障をきたすようになってしまうことではないのでしょうか。

スマホやマンガを楽しみ、同時にほかにもやりたいこと、やるべきこともわかって、それを実行していくためには、自らの意志力やコントロール力が育っていることが必要です。

偏差値が高く、一流大学に入ったある学生が、幼い頃今も動画を見るのもマンガを読むのも好きで、歴史も最初はマンガで学んだと回顧しているニュースを見ることがあります。それは、大好きな漫画や動画を楽しみながら、ほかにもやりたいこと、やるべきことがわかっており、自らの意思で勉強も読書もしていたということなのでしょう。

### 読書に親しむ環境を作る

幼稚園や保育園、学校で子どもが読書に興味や関心をもつような環境を作ることは重要です。同時に、家庭でも家族が読み聞かせを通して絵本を楽しむ機会を作ったり、家族が読書に夢中なるモデルを示したりするとともに、子どもが自分で納得できる生活や遊び、学習のルール作りを援助できたらよいのではないのでしょうか。



本園でも、「読書」「読み聞かせ」は本当に大切にしています。玄関の一角に、保育士による「おすすめの本」コーナーも作りました。また、「本に親しむ習慣づくり」とともに「言葉の習得」にも役立つと考えています。例えば、2歳児では「絵本やごっこ遊びを通しての言葉の積極的な使用」「絵本などを通しての繰り返しのある言葉の真似」「いろいろな話の理解と自分の言葉での表現」といったことを大切に取り組んでいます。このように「本に親しむ」ことはとても大切なことなのです。秋の夜長、家族で読書や読み聞かせを楽しんでみてください。

さらに、今後に向けて、やりたいことややるべきことを実行するための自らの意志力やコントロール力も育てていくように努めていきたいものです。そのためにもルール作りが大切になってくるのでしょうか。